

[第 26 回定時株主総会 主な質疑応答 (要旨)]

Q1. 毎年株主総会のお土産を楽しみにしている。昨年は生ものをいただいたが、それと気づかず腐らせてしまい、大変残念だった。生ものはやめていただくか、その旨明記してほしい。

A1. 株主の皆さまへの配慮が欠けていたことをお詫びする。株主総会へ参加してくださる皆さまへより一層の配慮をしていく。今後ご意見やご要望があればお知らせいただきたい。

Q2. 2008 年の株主総会において、プレミアムな映像作品を見せていただいた。ぜひ今後もフィールズが手掛けている作品を紹介いただけると嬉しく思う。

A2. 当時、当社オリジナルの映像作品は本邦初公開ということで、ぜひ株主の皆さまに最初にご覧いただきたいという思いで用意した。今、コミック作品の映像化が進んでいることもあり、ぜひ来年は皆さまにご覧いただきたい。

Q3. 成長戦略について、もう少し数字を含めた具体的なメッセージを発表すれば株主価値にも好影響があると思うがいかがお考えか？

A3. 現在、中期事業計画を策定中であり、時機を見て、特に利益成長及びそれに伴う株主還元策について、具体的な数字とともに発表する予定だ。

Q4. 糸井取締役伺いたい。これまで取締役会に出席して最も印象に残っていることはどのようなことか？

A4. 遊技機流通の会社としてスタートし、その事業において収益を上げている中で、すでに 5 年ほど前からコンテンツを軸としたビジネスへと大きく舵を切り、実際にその方向へと動いている。その実現性に感心している。

Q5. 広告宣伝費の内訳を教えてください。また、企業広告の取り組みも強化してほしい。

A5. 遊技機関連の販売促進費用が大半を占めており、そのほかコミックやソーシャルゲーム、ウルトラマンに関連したビジネスの広告宣伝費となっている。企業広告は現状あまり積極的には行っていないが、キャラクタービジネスを展開していく上で、強化すべき課題として認識している。

Q6. 定款の変更により取締役の報酬額が8億円から11億円になるとのことだが、11億円とはどのように割り出した金額か？

A6. 現状では余裕のある枠であり、この枠の中で運用していくという設定額である。優秀な人材には市場価値に合った報酬を支払うべきであり、この枠があれば、将来の事業拡大に向けて優秀な人材の招聘等も可能と考えている。

Q7: 貸借対照表に関する注記にある偶発債務とは、どのような債務なのか？また、偶発債務は業界の慣習なのか？

A7: 貸借対照表に関する注記に掲載している偶発債務は、当社が遊技機メーカーからパチンコホールへの遊技機販売を代行する際に、その遊技機代金について保証するものであり、パチンコホールが支払いを完了することで、当社の偶発債務は消滅する。なお、遊技機販売を代行する際は、その遊技機代金について保証することが業界慣習となっている。

Q8: 国内においてカジノの解禁が話題となっているが、フィールズはカジノに対してどのような考えを持っているのか？

A8: エンタテインメントの一つとしてカジノについて興味を持っており、専門チームを作って研究している。日本において、カジノは統合型リゾートとして様々なエンタテインメント施設と併設されると考えられており、私たちは、そこに当社のコンテンツを提供したいと考えている。